

お伽噺と幼稚園に用ゐる童話の關係及

其の改善に就て

私立福岡幼稚園 萩野ヒサ子

皆様御承知の如く物は多く用ゐる方に依つて有利とも、有害ともなる事でありますが、有利にするには其選擇用法律度と云ふものを、是非考究して實驗に須つ外はないと思ひます。私は、最もお伽噺を賞玩する一人でありますが、

お伽噺に依つて修養も娛樂も出來、向上もさせらるゝもので、特に快活なる氣分は、此のお伽噺に依つて養はるゝものであります。此のお伽噺は、他の娛樂材料に比べますと、餘程進歩した樂で、有益な材料であります。

近頃急速力を以つてお伽噺俱樂部お伽會及お伽噺の參考書が澤山に出來て參りました事は私等の最も祝福する所であります。

茲に、私が、少し恥を申し上げますが、私には學識が乏しき爲め時折間違つた考へを起して、非常に幼兒保育上に憂慮をする事があります。私は、初め

お伽噺と、寓言童話とは、同一のものごのみ思つて居ました處が、此の頃折々各方面に於て、お伽噺を伺つて見ますと、中には、只管幼兒の歡心を迎ふるのみを主眼として、其の字の意義の如く暫時聞く人のお伽をすると云ふに止まり、恰も夢を物語るが如き感を與へらるゝ事があります。而し是れはお伽噺の眞の目的でないこと云ふ事は後に覺る事が出來て最初の私の考へは誤解で有つた事を知りました。又參考書に於ても同じであります。

前述の如くお伽噺はお伽を主とするもの、童話は修身を主としお伽を加味するものと私の頭の中に區畫を致しました。

お伽噺は名の如くお伽を主とし、空想に富んだ不思議の事柄を以て之を構成し、専ら歡心を迎ふるを目的とする性質のものであるとすれば、私は學齡未滿の幼兒に之れを用ゐるに就ては、其選擇と用法と

程度とは、餘程慎重に注意を拂はねばならぬと思ひます。寧ろ、一考を要すべき事と思ひます。學齡前の幼兒は身體の各部最も發育しつゝある時であつて、草木の二葉の如く其の幹莖枝葉は其物の受くる溫度、濕氣、肥料との時期と、程度に依つて發育を左右するものであると同じく幼兒の發育も受くる所の外物に依つて左右せらるゝ事最も旺盛なるものであります。

幹莖即ち心(精神)此幼兒の精神教養を左右するものは幼稚園に於ては、無論母に代はる保姆の誠意ある愛撫と其眞誠の愛より出づる訓育にあるものですが、又種々お嘶の修養上に及ぼす力も大なるものであります。愛は即ち、初生草木に於ける溫度で有つて、訓育は濕氣の如く、お嘶は肥料と同じく相須つて、身體及精神を養育するに缺く可からざるものであります。故に、私は、幼兒に於けるお嘶と云ふものは、最も重大視して研究を怠らぬものであります。

お嘶の選擇と研究

- 一、幼兒の精神上に及ぼす影響。
- 二、幼兒の誤解を招かぬ注意。

三、幼兒の頭腦を擾亂せざる注意。

幼兒の精神上に及ぼす影響。

- 一、多くの参考書より選擇するに際し第一に此お話は幼兒の精神上に、如何なる感と與へるか、考究の上取捨す。

幼兒の誤解を招かぬ注意。

- 二、有り得べき事と思ふて信ずるか、信せざるか。幼兒の頭腦を擾亂せざる注意。

- 三、一、有り得可からざる魔法使又は、或る一種の神力に依る變化。

- 2、同一のお嘶は可成保姆全體が同様に嘶し振りを一定する事(一園保姆若くは一區一市)。

- 3、保姆が二回三回と繰返し同じ幼兒に同一のお嘶をなすとき最初のお嘶とは嘶振を變へぬ事。

- 4、小學校に用ゐるお嘶は、可成用ゐぬか、又は小學校と打合せをしたる上同一になすこと。

- 5、お話を改作するときの、大人には、魔法と云ふ事の解釋が出来るが、幼兒には事實を魔法との識別が出来ぬ。將た魔法其のものさへ了解が出来ぬ(幼兒の問ひに、先生魔法とは何ですかと云ふ事が有ります)。了解の出来る者は、印

象が極めて薄弱である。魔法其ものゝ印象が薄弱であるから、目を經るに隨つて、其魔法の産み出したる事實の話で有つたが、眞の事實で有つたやに迷ふ様になる。然らば、幼兒には魔法なるものゝ想像は出来ぬかと云ふに幼兒は、大人が考の不及記憶が有るもので、幼兒其者の感覺が腦力發育の程度に依つて、一樣ならず極單調の頭で以つて妙に其の幼兒の腦力程度に了解を與へて、記憶して居るものである故に頭腦を擾亂せしむ。

2、甲の先生が、桃太郎の話をするとき、お婆さんが桃を戸棚に入れて居たら夜になつて、バチーンと、音がして其桃が一人で破れて中から可愛らしい赤ちゃんが出て來たと話す。

乙の先生は、お爺さんとお婆さんと、桃を食べやうと思つて庖丁で割つたら中から美しくいほつちやんが出て來たと云ふが如く、甲乙の二者の話が異つたら幼兒は何れを信じてよろしきかに迷ふ、即ち頭腦を擾亂するの初まりである、噺のみならず先生即ち、保姆を信ずる事に迷ふものである。

3、幼兒が此間聞いた太郎さんの飛行機に乗つたお話をして頂戴と多數要求するとき、保姆が最初の時には明笛を吹いてマルと云ふ犬を連れて野原に行たと話して置きながら保姆がつい一時忘れて居たから横笛と云ひタマと云ふが如き類である。大人ならば、マルであらうとタマで有らうと犬は犬だから先生が忘れて居たよと思ふけれども幼兒は、其腦力がないから顔を見合はせて、太郎さんのお話かしら先生、それも太郎さんのお話ですか、太郎さんところに犬が二疋ゐるねえ、笛も二ツ持つて居ますかと云ふ如く話の事實の筋は、同じでも少しの差異があれば迷ふものである。即ち迷ひの初まりである。此處が幼兒の腦力の不備なる處であります。

4、小學校に用ゐるお噺を幼稚園に用ゐるならば、是非小學校と打合せする必要があります。幼兒の頭腦には、先に入つたものが既に信せられて居る故に他日小學校で簡單に荒打なお噺振があれば先に、聞いたのが善き様に感じて却て善き教訓的に聞かされたお噺を面白くないとか又は學校の先生は、下手とかと妙に感ずるもの

である。茲に學校の先生に對し、最初の信頼を傷くる様になる此例は二三持つて居ます。猶ほ唱歌遊戲に於ても同じである。實例は毎々聞いた事があります。經驗の上から申します。

5、お話を改作するに當り一夜作りて改作して翌日甘く噺して置いて熟々考へて見るとまだぐより以上に面白く幼兒に快感を與へられて、少しの口上を附加する計りで、最も訓育的になる。そこで幼兒の再び要求する日を待ちて今度こそはより以上に甘くして悦ばせんと後の改作の方を話すことが有る。私の經驗に依れば、是れも多くは不可で多くの場合幼兒の迷を來すことがあります。私は思ひます。先生と云ふものは、一度言ふた事が不足なれば不足の儘の一の型の様式見た様にして置いて、其の幼兒の信を深からしめ、其幼兒の終了後新幼兒と代つた時新たなる幼兒に、新なる話をするに際し、第二の改作を話すがよろしいと、幼兒を悦ばせることは最もよろしい事であるが苟くも教への根本を亂す恐れのあることは控へねばならぬ又愛情の亂用とならんことに注意することが肝要である。

一ヶ年お噺の數

幼稚園に適切なるお噺即ち面白くて教訓になる平易なお話は之れを選択するに實に困難である様なれども多く談す人の談し様に依つて感興を與へると否とは、有るものである。然し一年を通じて話題六十以上有らねばならぬ。又一年の保育日數は、二百四十餘日である。一週平均三題として百餘題を要する譯なれども、偶發事項に依る躑上の訓育其の他の訓育の日を除けば七十餘題で充分と思ひます。重き任務を負ふて立つ保母は是れを選択するは正當の職務上の任務であると思ひます。

保母の言行は幼兒の範なり

其の子を知らうと欲せば、其の親を見よと云ふ如く子供を見て凡そ其の親の教養の如何を知る事が出来る如くに、園兒は保母の寫眞である。笑顔を以つて幼兒を迎ふれば幼兒笑ひ、怒顔を以つて幼兒に對へば、幼兒の笑顔を見ざるが如く亦精神に及ぼす感化も甚だしきものである。幼兒に及ぼしたる感化は幼兒將來の基礎となる故に、保母は片時も三ツ子の根性百迄又先入主となること云ふことは忘れてはならぬ、一舉手一投足、他日の範たるものである。幼兒

の忘れ易きを待みて、苟くも不合理、不親切なる言動を示して置く時は、日を経て其の忘れて欲しいと思ひたるものが却つて能く記憶されて居るものので有つて保母自身に反省して自ら恥づることのあるものである人様の大切なお子様を安心して幼稚園にお預けになつて居るものなれば、保母の責任は其親と同じく重大のものである第二國民の身體と精神の基礎を左右する教養を任せられて居るものなれば、幼児

の將來を深く考慮して特にお噺の選擇に考究せねばならぬと思ひます。
要するに私は、幼稚園保母が研究を重ねて幼児に適切なる事實談及寓言童話を選び身振手振をして幼兒の快感を誘ひ喜悅裏に忠孝其の他勸善の修養を逸せぬ様不知不識裏に感化薰陶をなさん事を望む。
換言すれば童話をお伽式に噺して修身的目的を逸せぬこと最も肝要と思ひます。(終)

○虐げられし小國民

戦後獨逸が食料と物資に缺乏して國民の生活が着かされて居る事は屢々傳へられた所だが殊に此食料と物資の缺乏は獨逸の小兒を苦しめ爲に識者は獨逸民族將來の爲寄々協議して居るされど今尙名案が出ない内に冬に入らうとし寒さと餓とは遠慮なく先づ小兒を苦しめるので兎も角獨逸小兒救濟會と云ふものを組織し其發會式を兼ねて獨逸全國に亘り十一月二十八日小兒救濟の爲に示威運動を行つた同日伯林大學教育學教授のラングスタイン博士は小兒救濟が殆ど絶望であると悲觀し

曾つてエレン・ケイ女史は二十世紀は小兒の時代なりと言つたが獨逸の小兒に取つては二十世紀は小兒虐殺時代だ。と聲涙共に下る演説を試みた普魯西議會は目下開會中だが矢張小兒救濟が問題となつて居り二十七日普魯西文相ステゲバルト氏は小兒の爲稍々激昂せる句調を交へて左の演説をした。

大伯林市の某區立小學校は六百五十人の生徒を教へて居るが其内百六十一人は跳足で百四十七人は上著なして通學し又三百五人は襯衣なしで通學して居る而して是等兒童中家庭で牛乳を飲むことが出来ない小兒が三百四十一人ある斯くの如き有様であるから六百五十人の内六十人は過去三箇月間の榮養不良と寒さの爲に病氣となつて死んだ。

と又伯林市立慈善病院長ピコットナー博士は同じく小兒の窮境を述べて次のやうに言つた。
伯林市内に癡林のシーツが缺乏して居る爲と住宅缺乏の爲に小兒は年々弱くなり本病院に入院するものは大抵肺結核である。とされど食料と物資の缺乏せる目下の獨逸としては坐して其死を見て居るより外に仕方がない有様である。(東京日々新聞伯林特電)